

令和4年度 事業所における自己評価結果 児童発達支援事業				事業所名 長野市篠ノ井愛の樹園
チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容または改善目標
① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	<input type="radio"/>		お子さんのクラス分け等に対応している。 定員に対して総面積は十分である。 人数によって手狭になってしまう時もあるが、活動場所の工夫で対応している。	建物の老朽化などハード面は仕方のない所ではあるが、指定管理者の長野市と協議しながら修繕など必要などところについては行っていく。
② 職員の配置数は適切である	<input type="radio"/>		国の定めた基準以上の配置をしている。お子さん2に対して大人1、お子さんによっては3対1で無理なく目が届きやすいと思う。	
③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	<input type="radio"/>		まだまだ工夫できる場所もあると思うが手が付けられるところから一つ一つ構造化し、分かりやすさ、動きやすさにつながっている。 自由遊びの時のスペースが構造化され、「遊ぶスペース」がわかりやすくなったと思う。出来る限りの合理的配慮をする。	建物の古さや指定管理施設である為、難しい部分があるが今後も工夫をしていく。
④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	<input type="radio"/>		建物の古さはあるが、コロナ禍という事もあり清掃消毒は徹底している。今後も工夫を重ね、安全で子どもたちの動きやすいように変更していきたい。	
⑤ 業務改善を進めるためのPDACサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	<input type="radio"/>		アンケート実施により意見を伝えることはできている。	
⑥ 保護者向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	<input type="radio"/>		実施している。	
⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	<input type="radio"/>			
⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		<input type="radio"/>		令和5年度受託予定
⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	<input type="radio"/>		年に数回研修が行われている。今年度は他事業所と合同で意見交換ができて良かった。事業所として職員研修を年2回、その他、法人として実施する研修や、外部の研修に参加している。	
⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	<input type="radio"/>			
⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	<input type="radio"/>			KIDSを取っているがその結果を反映させることが難しいと感じる。 専門職に相談しアセスメントツールの使用が定着し職員が理解し計画に反映していくための研修なども検討したい。

⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子供の支援に必要な項目が適切に選択され、その上で具体的な支援内容が設定されている	○			
⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
チェック項目					
⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		療育会議で月ごと予定を検討している。クラスで共有しその日はいる職員にも伝えている。	
⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成している	○		お子さんによって身辺自立やコミュニケーション等の力を伸ばせるよう計画している。	
⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		なるべく動きを伝え、その日の目的、活動中のその児の目的を伝えている。活動の流れを相談したり「こうしたい」と伝えるようにしている。	
⑱	支援終了後には、職員間必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		できる日にはお子さんの様子を共有し支援の方向性を話している。 職員同士ではコミュニケーションが取れている。	時間がない日もあり、「必ず」という点は難しい。 小さな事業所であるが時間外の預かりもしており、仕組みとして振り返りの時間が取れない。
⑲	日々の支援に関して記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			
㉑	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい物が参画している	○			
㉒	母子保健や子ども・子育て支援の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			
㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			該当児なし	

②4	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力機関等と連絡体制を整えている			該当児なし	
②5	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保育所訪問事業を請け負っているため訪問時に毎回カンファレンスでお互いの園での情報共有や「こうしてもらいたい」という点をお話している。アセスメントシートをまとめ、保護者の同意を得てから情報提供書としてお渡ししている。	
②6	移行支援として小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		アセスメントシートをまとめ、保護者の同意を得てから情報提供書としてお渡ししている。	
②7	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		法人内の児童発達支援センターや児童発達支援事業所との連携がある。	
②8	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		コロナ禍で難しい部分はあるが実施している。	
	チェック項目				
②9	(自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		長野市自立支援協議会のこども部会に参加している。	
③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			
③1	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレン・トレーニング等)の支援を行っている	○		保護者教室を開催している。(年4回)	
③2	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		面談契約時に伝えている。	
③3	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
③4	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
③5	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			

③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			
③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		コロナ禍で実施できない。
④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			足りないマニュアルはある。また、実効性があるかどうかは検証が必要。
④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		火災、地震、水害、不審者など想定し月に1回避難訓練を行っている。	想定し、しっかりと行っていく必要があるので訓練計画などを職員間で相談、周知していく。
④⑬	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のことものの状況を確認している	○			てんかん発作や熱性けいれんのあるお子さん毎の情報が記載してあるカードが今後作ればさらに良いと思う。法人内の児童発達支援センターと連携し作成していく。
④⑭	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		除去対応などが困難なため、食物アレルギーのあるお子さんについてはお弁当をお願いしている。	アレルギーがある場合は受診し医師の指示書をお願いしている。
	チェック項目				
④⑮	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		事例があった時には報告書を作成し全職員回覧している。	
④⑯	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
④⑰	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			現在必要性のある園児がないがそういったケースが出れば、適切に対応する。